

慶蔵院寺報

公孫樹

2021年2月発行

第109号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町 1211

TEL 0596 (22) 3726

また会える日まで…

一月十四日、シンガーソングライター横井久美子さんの訃報連絡を受けた。「病気になったが病人にはならない」と言っていたのだが…。

横井さんが居てくれたからこそ、ベトナム支援「スカラシップの会」やネパール・サチコール村ホール建設があった。

二〇〇七年、横井さん企画のツアー中、ベトナム古都フエで日本語を学ぶ子どもたちと出会った。「この子たちの里親になって日本語を勉強させてやりたい」という思いが、三年後には「スカラシップの会」発足につながった。二〇一六年までに六期二十五名の中高校生を無償で慶蔵院「てらこや塾」に迎え、みなさんの協力もいただいて、日本語学習支援を行うことが出来た。

二〇一〇年十二月、ネパールにOKバジを訪ね、パルパ地方に入った際、サチコール村で桜井ひろ子さんと出会った。絵本文庫を建設し、子どもたちに読み聞かせや紙芝居をしている。「ここで横井さんに歌ってもらいたい…」と二人で盛り上がった。この思いを横井さんは受けとめてくれた。翌年には約束通り、電気も水道もないサチコール村の絵本文庫で村人たちに、初めて生の音楽を聞かせてくれた。横井さんは、二〇一一年以降一三回、サチコール村に通い、村人総出で音楽ホールを建て、子どもたちにギターを教えた。その経過を本にまとめ、ドキュメンタリー映画を創りあげた。


二〇一九年七月、東京「なかのNPOOホール」を満員にして「横井久美子五〇周年記念コンサート」を開催。サチコールの子どもたちも招待された。ちょうど「てらこや塾」で勉強中だった八期ベトナム中高校生一名・引率のホー先生ご夫妻も、伊勢からコンサートに参加してくれた皆さんと一緒にバス一台で駆けつけた。聴衆一人一人の心に灯を点す集大成ともいえるコンサート。「ここから新たに始まる」と誰しもが思い決意した。その一年半後にこの日を迎えるとは…。慶蔵院の活動は横井さん抜きでは語れない。ずっと前を歩き続けていてほしかった。しかし横井さんが向かった目標は見えている。歩み続けねばならない。再会を願って…。



横井久美子コンサート 春秋楽座 伊勢に於いて 西里定一 画

2月の行事予定



3日(水)	写経 映画会	午前10時～ 午後7時半～
10日(水)	念仏会	午後7時半～
17日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生 男性詠唱隊	※ 中止させていただきます 午後7時半～ 
24日(水)	読経会	午後7時半～
25日(木)	戦没者慰霊	午前11時～
12日・26日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	※ 中止させていただきます
18日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 参加費1000円
予約があれば水曜日	キサン シンキングボウル ヒーリング	午後1時～ 要望に応じて30分～60分

慶蔵院豆知識

⑥



新しい年になりました。寺世話人様・有志の方々、毎朝のお掃除、大変お世話になりました。ありがとうございます。

この欄への私の投稿も六回目となりました。今回は、慶蔵院内あおい園の運転手をしていただいていた野依の時蔵さんから聞かせていただいたお話です。

慶蔵院の前、現在、駐車場にお借りしているあたりは鬱蒼とした森になっていて、「夜になると『追いはぎ』がでるぞ…」とおどされたりしたもので、通る時は恐々、逃げるように走って通ったそうです。長いこと、直径がメートル以上もある古株が、畑に取り残されていたとも聞きました。

また、友人たちと山田に遊びに行き、遅くなると鉄橋に来て、線路に耳を当て、「あつ止まった」「あつ、発車した」。今、駅に止まっていると見極めて「ソレー」…。走って鉄橋を渡り、野依まで堤防を歩いて帰ったものだった…。と楽しそうに話してくれました。昼間は旧日赤裏の松林から、小俣側に渡し船が出ていたのです。

何もかもが様変わりしてしまいました。今は、門を出るときにも「追いはぎ」ではなく、車に気をつけて、ゆっくりと道に出ています。

(栄子)



浄土宗新聞より

桜井ひろ子さんからの手紙

あした 20 日は横井久美子さん、ご親族の皆さんに囲まれて魂となれる日なのでしょう。

「原発なくすまで生き抜こう〜」というメッセージを私達に手渡して! 横井久美子という命を生き抜いて、50 周年リサイタルのまゝに逝かれるのでしょうか。病気で苦しかった時、サンギートホールから見えるサチコール村の景色を思い出したら踏ん張れたと、力強い電話の声でした。バジからの電話に元気も涙も出たという電話が最後の声でした。

その数日後、前田さんの代筆で「いつもラブレターをありがとう」のメッセージを下さいました。最後まで全力で前向きに強く病気と闘いながら、他者への思いを発信し続けて命を全うされたのでしょうか。Kumiko-ji デライ デライ ダンニャバート! (久美子さん とても とても ありがとう)

前島先生 横井久美子さんとの出会いをありがとうございました。心より深く深く感謝申し上げます。

サチコール村の 完成したばかりの絵本文庫で夢のような人生ドラマの幕があきました。「ここに横井久美子を呼ぶ」前島先生のその一言からでした。東京でお会いして、その話をきり出した時

「私はネパールには行きません。ネパールとは歌も作ってないし、関りもないし、歌や踊りはあなたがしているでしょう。」

「一度でいいから本物がほしいんです。」

思わず口から出た一言に、「ハイわかりました。では一度だけ行きます」と間髪を入れないその一言に、横井さんの生き方・価値観をつきつけられた思いで身震いしました。

時間にとらわれない村人たちが、真っ黒になったチケットを手に 1 時間以上も前から並んでいること。日本語もわからないのに久美子さんの歌う「にんげんをかえせ」に涙する人たち。

交流会で「来年も来ます!」と舞台上で宣言した横井さんに、みい〜んなでポカーンとあっけにとられたこともありありと浮かびます。

村人たち、子ども達の悲しみを思うと涙が出てきて止まりません。でも誰の命も限りがあります。限りある生命の中で、横井久美子さんとの出会いを前島先生に頂いたことは一生の宝物です。本当に本当にありがとうございました。なんだか気持ちがゆれて、前島先生にお礼を伝えたく、失礼な紙で(注・ お料理の敷紙)…と思いつつ、全て全てをお許し頂いて気持ちをお届けします。

2021.1.19 桜井ひろ子

桜井ひろ子さんは、一年に何か月かはサチコール村で、村人たちと暮らしています。慶蔵院でも何度かお話をいただいています。本堂には、著書もそろっています。ご覧ください。また来ていただこうと思っています。

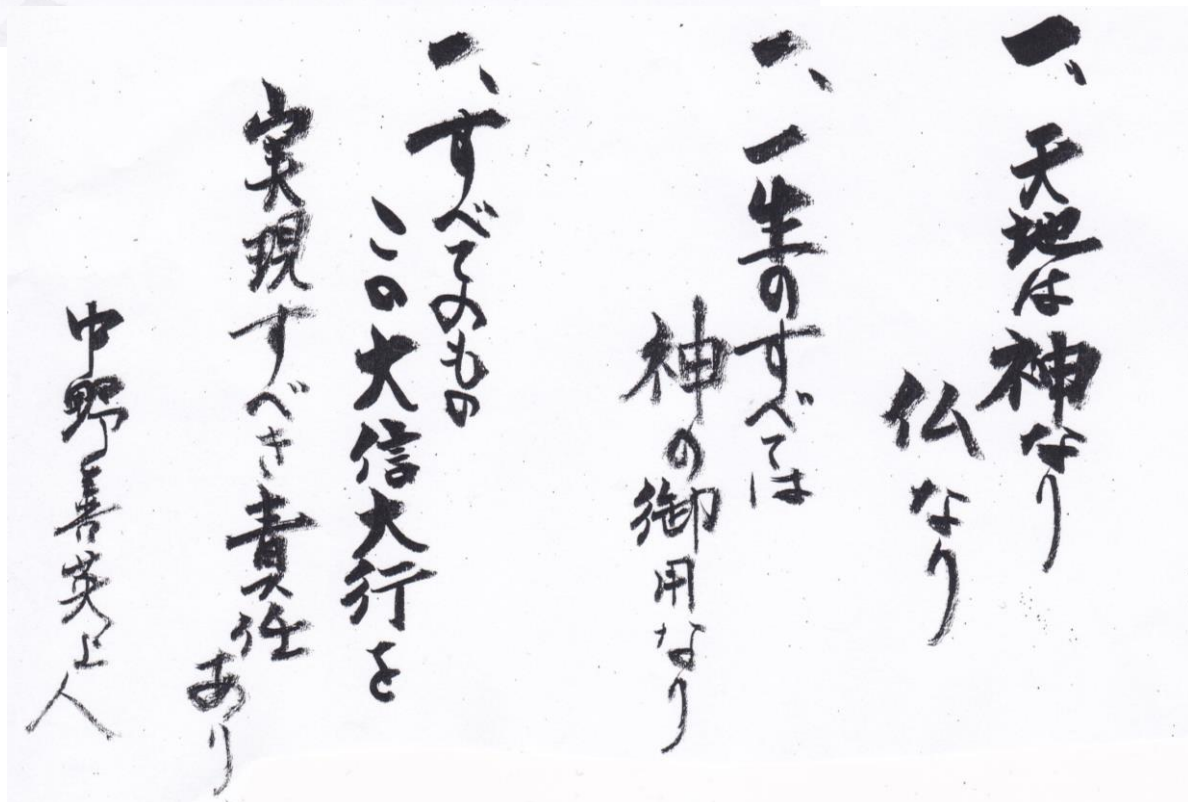
今年こそコロナを祓う節分会

奥田 悦生

(「知恩」誌二月号「柳壇」に掲載)

今月の行事 子ども会・涅槃会・健康教室・茶道
教室は、新型コロナウイルスの収束が見込めないため、中止させていただきます。よろしく申し上げます。

☆お知らせ☆



横井久美子さんは、一九八二年、横浜で少年たちが浮浪者を襲撃した事件をテーマに「少年」という歌を創った。横井さんが掴もうとした少年の心と、この時代に生きる少年への救いがどこにあるのか…という問いは、当時の私の問いでもあり、そして今もなお、僧侶としての課題でもある。

横井さんは言う。

「日本の社会は、なんと愛のない社会だろうか」

「子どもたちは…孤独に泣いている。必死でなにかにすがろうとしている。誰にも理解されないまま、…引き裂かれようとしているのではないか…」

横井さんは続ける。

「私たち人間は、私たち自身の中に『光』を持っているはずですよ」。

そして横井さんは少年たちに向かって呼びかけ歌う。

「…君が君を愛さなければ、誰が君を愛するのだろうか。そうさ君こそ光なのだ」横井久美子、魂の叫びだ。

横井さんの魂の「呼びかけ」をどのようにして少年の心に届けばよいのだろうか…という課題である。

救いは「信仰」の中にこそあると伝えたい…。

私たちは、天地に生かされている。ものみな生かす天地の力。神・仏の御用を果たすのが私たちの務め。

「君が君であるそのままに、仏は君を抜苦与樂の慈悲をもって包んでくれている。君は愛されている存在なのだ。仏の光が君をつつみこんでくれているから君は光なのだ。君が君を愛せなくとも君は愛されており、闇の中にすでに光をいただいているのだ。南無阿弥陀仏と称えてこらん。光がさしてくるから…」と。

「君が君であるそのままに、仏は君を抜苦与樂の慈悲をもって包んでくれている。君は愛されている存在なのだ。仏の光が君をつつみこんでくれているから君は光なのだ。君が君を愛せなくとも君は愛されており、闇の中にすでに光をいただいているのだ。南無阿弥陀仏と称えてこらん。光がさしてくるから…」と。